

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	9

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト『水辺の“小さな自然再生”コンセプトムービー』を公開しました

水辺でできる「小さな自然再生」の普及促進を目的に制作しました約3分のコンセプトムービーを公開致しました。

この動画は、「小さな自然再生」がどのような取組みかを知りたい人、また「小さな自然再生」に取り組んでみたいが何から始めていいかわからず迷っている人、更には施策や資金面で後押し頂く方々を対象に制作しています。「小さな自然再生」の三つの定義と具体事例を中心に構成しており、「楽しそうだな」と興味を持って頂き、まずは「よし、やってみるか」と川づくりの担い手を後押しできれば幸いです。

バックミュージックが異なる「躍動編」と「情景編」の二つを用意しましたので、JRRN の Youtube ページでご覧下さい。

■ 水辺の“小さな自然再生”・コンセプトムービー（躍動編）

<https://youtu.be/Qno9739T7ho>

■ 水辺の“小さな自然再生”・コンセプトムービー（情景編）

<https://youtu.be/VltakMWuNbc>

なお、本動画制作は公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けております。



(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2018」は Facebook から応募いただけます (5月30日まで)

JRRN では、今年も皆様が撮影された「桜のある水辺風景」の写真をただいま募集しております。本公募は、水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的として 2010 年に始まり、おかげさまで今年で 9 年目を迎えました。

作品は E メール（応募シート※に記載し、写真と共に送付。3 MB 以下）のほか、FaceBook からのご応募いただけます。沖縄から北海道まで全国からご応募をお待ちしています。

※<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Photo2018form.doc>



《Facebook》

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

《募集ページ》

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/883.html>



《過去の応募写真集(2010～2017 年)がご覧いただけます》

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

桜のある水辺風景 2018 応募要項 ～facebook での応募～

- 応募資格**： どなたでもご応募いただけます。
- 応募期間**： 2018 年 3 月 1 日（木）
～2018 年 5 月 30 日（木）
- facebook 投稿の作品規定**：
 - ・ご本人が 2018 年に撮影された写真に限定します。
 - ・写真データは 3MB 以内を目安として下さい。
 - ・一人 3 点まで可能です。但し、ご本人が撮影した写真に限定します。
 - ・個人が特定できる画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得て下さい。
- facebook 投稿方法**：
 - ・Facebook のタイムラインの投稿欄の[写真・動画]から写真を投稿して下さい。
 - ・[コメント欄]に、撮影場所（河川名等）やメッセージ（作品への思いなど）を自由に入力してください。
- facebook での表示方法**：
 - ・Facebook のタイムライン投稿後は、ページ左の「ビジター投稿」欄にリアルタイムで掲載されます。
 - ・投稿頂いた作品は、JRRN 事務局で Facebook のタイムラインページ上に「写真」「コメント」「氏名」とともに数日以内にアップしてご紹介させていただきます。
- facebook の削除方法**：
 - ・Facebook への投稿後、「ビジター投稿」欄の右上より、ご自分の投稿を削除することができます。
 - ・タイムラインページ上に掲載された作品の削除を希望する場合は、JRRN 事務局(info@a-rr.net)までお知らせ下さい。
- 応募作品の取扱い**：
 - ・Facebook ページ及び「桜のある水辺風景 2018 応募写真集」（6 月公開予定）の中でご紹介させていただきます。
 - ・応募作品を紹介する際には氏名も掲載させていただきます。
 - ・上記のご紹介に際しては、同一地点での類似した風景等の作品は事務局により掲載作品を選ばせて頂く場合があります。
 - ・応募内容が本企画趣旨に沿わないと判断した場合は紹介を控えさせて頂くことがあります。
 - ・JRRN の刊行物やウェブサイト等で使用させて頂くことがあります。

(JRRN 事務局・澤田みつ子)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト『第8回小さな自然再生現地研修会 in 秋田』報告書発行案内

2018年2月27日(火)に秋田県大仙市・斉内川を対象に開催した『第8回「小さな自然再生」現地研修会』の報告書が完成致しました。

この開催報告は、「小さな自然再生」の考え方や留意点、他地域や地元の取組みを学びながら、「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」をテーマに議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

秋田県建設部河川砂防課との共催で開催した今回の研修会には、地元の自治体や民間会社、市民団体など100名を超える参加者にお越しいただきました。座学研修とワークショップに特化し、意見交換の時間を充実させた研修内容の報告をぜひご覧ください。座学研修の講義資料や講演資料、開催後の参加者アンケート結果も盛り込んでおります。

多くの皆さんにお手にとっていただければ幸いです。

【研修会プログラム】

2月27日(火)

■「小さな自然再生」に関する座学研修

- 小さな自然再生のすすめ「河川生態系のしくみ」
(三橋弘宗:兵庫県立大学自然・環境科学研究所)
- 事例紹介「小さな自然再生と多自然川づくり」
(岩瀬晴夫:(株)北海道技術コンサルタント)
- 事例紹介「小さな自然再生の留意点」
(瀧 健太郎:滋賀県立大学環境科学部)

■地元の取組みと現地の状況説明

- 地元の取組み紹介&現地の状況説明「河川工事における現状と多自然川づくりへの取り組み」
(児玉光広:秋田県建設部河川砂防課)
- 地元の取組み紹介「地域における中学生による自然再生活動」
(青谷晃吉:大仙市教育委員会教育アドバイザー)

■ワークショップ「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」

ファシリテーター:

三橋弘宗:兵庫県立大学自然・環境科学研究所

研修会へご参加くださった皆様、事前準備や当日の運営、その後のフォローアップに至るまでご尽力いただきました協力先の皆様、「小さな自然再生」研究会の皆様にご改めて感謝を申し上げます。



第8回「小さな自然再生」現地研修会 開催報告書
ダウンロードはこちら (全79ページ・PDF 10.2MB)

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/222>

※水辺でできる「小さな自然再生」の事例、参考資料、研修会成果等は、以下のホームページよりご覧頂くことができます。

■水辺の小さな自然再生ホームページ

→ <http://www.collabo-river.jp/>

なお、本活動は(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施したものです。ご支援を頂きまして誠にありがとうございました。

(JRRN 事務局・佐治史)

JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

水辺のごみ見つけ！ (全国水辺のごみ調査) 調査協力をお願いします**～川ごみの実態を数値化し、ごみ削減の仕組みづくりに役立てましょう～**

伊藤浩子 (全国川ごみネットワーク・JRRN 会員)

みなさんの身近な河川では、ごみが気になりますか？
川ごみ拾いをして、ごみは減っているでしょうか？

多くの河川でごみ拾いは行われていても、川ごみはいつまでも無くならないままです。川を通じて海へ出たプラスチックごみは、国際的な環境問題となっています。川ごみは拾うだけでなく、発生抑制の根本対策が必要となっています。ごみが削減される仕組みづくりに向け、まずは、川ごみの実態を明らかにしたいと考えます。

全国川ごみネットワークは、全国の水辺のごみを調査する「水辺のごみ見つけ！」を実施し、みなさまに調査参加をお願いしています。

■ 個数を数えて報告するだけ

「水辺のごみ見つけ！」は、身近な水辺で、①飲料ペットボトル、②レジ袋、③カップ型飲料容器の3項目のごみを拾って、その個数を報告するだけです。調査地は、川だけでなく、用水路、湖沼、海岸などの水辺であればどこでも OK。ごみは回収することが望ましいが、できない場合は目視で調査するだけでも OK。団体でも、個人でも気軽に取り組むことができます。もちろん無理な回収などはしないよう安全面には十分配慮をお願いします。調査期間は11月末までです。

報告シートはホームページよりダウンロードください。

■ 昨年の調査結果

昨年は、全国の264地点で、のべ1万人以上に参加いただきました。調査結果は以下の通りです。

==水辺のごみ見つけ！2017 調査結果==

- 飲料ペットボトル 40,802 個
- レジ袋 13,352 個
- カップ型飲料容器 1,712 個
- ・ 調査範囲 (水辺の長さ合計) : 186.48km
- ・ 調査期間 : 8 か月 (4 月～11 月)

川ごみを意識することで、ごみの発生原因や、ごみ削減について考えるきっかけにもなっています。

■ 国内河川には大量のペットボトル

昨年の調査では、川の244地点、範囲計134.58kmでペットボトルを34,172個数えました。調査距離は、日本の河川(一級、二級、準用河川)総延長の、約0.093%です。これより推定すると、国内河川には約4,000万個のペットボトルが散乱しているということになります。国内の清涼飲料PETボトル出荷本数は、年間227億本。PETボトルリサイクル率は83.9%(いずれも、PETボトルリサイクル推進協議会2016年度データ)です。大量のペットボトルがリサイクルされていないことがわかります。

これだけ大量のPETボトルが自然界に散乱している状況を改善するためには、企業、業界団体、行政も一緒になって発生抑制に取り組むことが必要となるでしょう。

水辺のごみ調査を通じて、川ごみの実態を数値化して、発生抑制の動きを盛り上げていきましょう！

みなさまのご参加ご協力をお願いいたします。

詳しくは以下のホームページと次頁のチラシをご参照ください。

『水辺のごみ見つけ！』全国水辺のごみ調査

全国の水辺でのごみを見つけ、ペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器の個数を数えるごみ調査を実施します。

3年目となる2018年も、同様に調査を実施します！！

個人・団体どなたでもOK！ 水辺であればどこでもOK！ 調査項目のごみを数えて報告するだけです！ 多くのご参加よろしくお願いします。



◆ 調査項目 1)飲料ペットボトル 2)レジ袋 3)カップ型飲料容器

◆ 調査期間 2018年4月1日～11月30日

水辺のごみ見つけ！について

● 2018参加募集のご案内(チラシ)

● 報告シート、記録用紙(2018)

● 調査概要

● 実施方法

● ==2017年 水辺のごみ見つけ！ 調査結果==

⇒ <http://kawagomi.jp/mikke/>

ごみのない 豊かな水辺をめざして
全国水辺のごみ調査

2018

水 辺 の ご み 見 っ け !

調査参加者 大 募 集 !

ごみの個数を
数えて、
報告するだけ



調査だけ
でもOK!
できれば回収

どなたでも
歓迎!
個人・団体で

水辺なら
どこでもOK!
川・用水路・
湖・海岸 など

ごみを調べて
水辺の環境を
考えましょう

■ 調査項目

- 1) 飲料ペットボトル
- 2) レジ袋
- 3) カップ型飲料容器

■ 調査対象期間・回数 2018年4月1日
 ~11月30日(金) 報告締切: 11月30日(金)

ごみを回収する場合は、同じ場所で何回でも調査可能。回収しないで数えるだけの場合は、1会場での報告は1回のみ。

==水辺に散乱している身近なプラスチックごみを調べて、
 水辺のごみが削減される仕組みづくりに役立てます。ご協力お願いいたします。==



身近な水辺のごみを拾うことは、
海の生き物たちを守ることにつながります!

9~10月はICC国際海岸クリーンアップキャンペーン期間です。
 参加してもっと詳しい調査をしてみましょう。水辺ならどこでも!
 くわしくは ▶ 一般社団法人JEAN <www.jean.jp>



全国川ごみネットワークは、ワールドグリーンアップ
 デイ2018に賛同しています。
 2018年9月15日に、世界同時のグリーンアップをしましょう!



河川 公益財団法人河川財団による
 基金 河川基金の助成を受けています。

【主催・報告・お問合せ先】

全国川ごみネットワーク

Tel : 080-5006-7307 Fax: 03-3654-7256
 Eメール : kawa53@kawagomi.jp

※チラシのダウンロードはこちらから : http://kawagomi.jp/2018/04/mikke_flyer18/

水辺からのメッセージ No.108

岡村幸二 (JRRN 会員)

清々しい河川敷： 堤防を駆け下りるとすぐに水辺 季節の花に彩られた河川空間



撮影：2018年3月（東京都江戸川区・旧中川）

◆地震水害対策から生まれた静かな水辺

旧中川は昭和5年(1930)にできた荒川放水路により、上下流が分断されましたが、下流部は「水位低下対策」による江東内部河川となり、複数の閘門・ゲートで締め切られて1993年に完成しました。

かつての「かさ上げ護岸」は不要になり、緩傾斜堤防で人が近づきやすい水辺が生まれています。

◆区民ボランティアで河川敷を美しく

旧中川左岸側の小松川地区ではボランティアの力でお花畑が毎年維持されています。現地に出会った人に「いつも大変ですね」と声をかけると、「私は近くで農業をやっているから」と明るい返事でした。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員寄稿 (3) JRRN Member Contribution

河川書の探求(1)

土佐藩家老野中兼山の栄光と挫折

古賀邦雄 (古賀河川図書館・JRRN 会員)

早明浦ダムから吉野川沿いに 3 キロ程下った帰全山公園 (高知県本山町) に、野中兼山像が建立されている。二本差しに、左手に地図を持ちながら工事の陣頭指揮をとっている。その姿は吉野川を見下ろしているかのようである。

兼山は元和元(1615)年～寛文 3(1663)年の江戸前期の政治家、儒学者である。土佐藩家老として二代藩主山内忠義に仕え、藩財政確立のため、治水や港湾改修、殖産興業を図った。

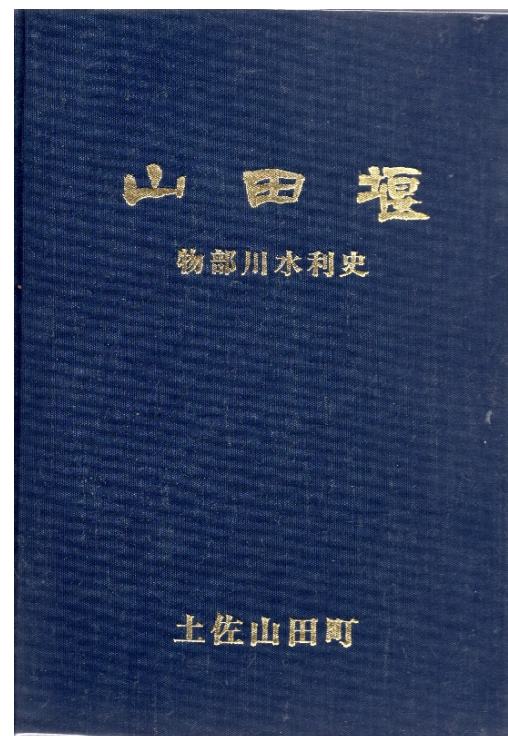


特に、兼山の業績は①吉野川流域での宮古野溝、下津野溝、行川溝の開削②物部川流域では灌漑用水として父養寺井、山田上井、山田中井、野市上井、舟運として舟入川、大津川の開削。山田堰は寛永 16(1639)年に着工、完成は兼山没後であり、25 年の歳月を要した。山田堰は弯曲斜め堰であったが、昭和 48 年に上流 800 メートル地点に合口堰が築造され、昭和 57 年一部を残して撤去された。

山田堰記録保存調査委員会編『山田堰－物部川水利

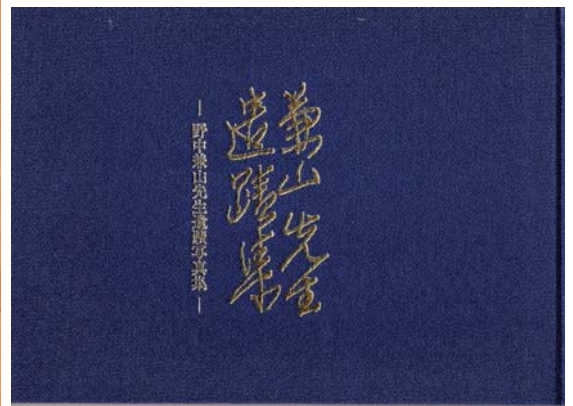
史－』(土佐山田町・昭和 59 年)に刊行されている。③仁淀川流域では八田堰、鎌田堰、四万十川流域では後川のカイロク堰、麻生堰、松田川流域では河戸堰の築造。④築港として、津呂港、室津港の開鑿、柏島港の突堤、浦戸港の波止めを行い、漁民保護海運の安全を図った。⑤産業奨励として養蜂業、陶器工業を興し、捕鯨組織、苗木配布の山林制度を制定した。

しかしながら兼山の施策は独裁的、強権的だと藩内から反感を買ひ、失脚、蟄居させられ 49 歳で急死した。兼山の功績があまりにも秀抜していたためか、江戸幕府が兼山を恐れ、その失脚には幕府がなんらかのかたちで関与したものと考えられる。



大原富枝著の小説『婉という女』(講談社・昭和 46 年)は、「今日、安東家からお使者が見え、幕府からの赦免上を受けた。お使者の帰ったあと、母上を中に、乳母、姉上、妹と相擁して泣いた。」と始まる。兼山の遺族達が宿毛に幽閉され、野中家の男達が途絶える。婉は兼山の娘。婉を女優岩下志麻が演じる。

兼山の伝記ものとして、次の書がある。



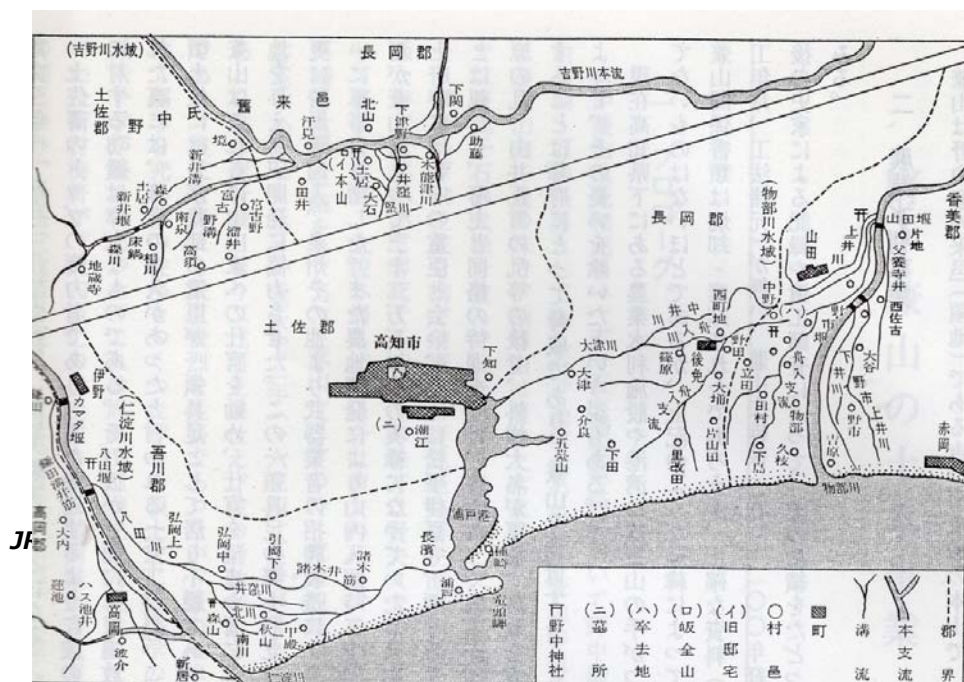
松野尾儀行著『南海之偉業 野中兼山一代記』(開成社・明治 26 年)。辻重忠・小関豊吉著『偉人野中兼山』(富山房・明治 44 年)。川添陽著『野中兼山』(高知県教育会・昭和 10 年)、同『烈女野中婉子の話』(高知県教育会・昭和 11 年)。松澤卓郎著『野中兼山』(大日本雄弁会講談社・昭和 16 年)。吉田喜市郎著『野中兼山良継』(神田書房・昭和 18 年)。田岡典夫著『小説野中兼山(上・中・下)』(平凡社・昭和 53 年～昭和 54 年)。海内院元吉著『山内侍兼山』(共生出版・平成 7 年)。

兼山の写真集として、寺田正写真『兼山』(寺田正写真集刊行会・平成 5 年)があり、濱田晃僖写真『兼山先生遺蹟集』(濱田直子・平成 5 年)は、山田堰、八田堰などを昭和 17 年から昭和 19 年にかけて写したもので貴重な資料であるといえる。

この書のダイジェスト版として青空編集室編・発行『執政野中兼山の偉業』(平成 9 年)が発行されている。兼山の資料として、高知県教育委員会編・発行『野中兼山関係文書』(昭和 40 年)、平尾道雄編『野中兼とその時代』(高知県文教協会・昭和 45 年)、神谷正司著『時代と野中兼山論』(山内家史料刊行委員会・昭和 56 年)、横川末吉著『野中兼山』(吉川弘文館・平成 2 年)がある。

野中兼山は、上杉鷹山、熊沢蕃山と並び天下の三山と称えられている。

<四国には生きた川あり花遍路> (石黒紀夫)



図一 1 野中兼山開削の溝渠と堰（西内青藍「偉人野中兼山」より）

会議・イベント案内 (2018年5月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 干潟・海辺の再生とまちづくり国際シンポジウム

○日時：2018年5月19日(土)～20日(日)
 ○主催：立命館アジア太平洋大学 他
 ○場所：ホテル近鉄アクアヴィア伊勢志摩(三重県志摩市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2773.html>

■ 第十七回「琵琶湖外来魚駆除の日」

○日時：2018年5月27日(日) 10:00-16:00
 ○主催：琵琶湖を戻す会
 ○場所：草津市烏丸半島多目的広場(滋賀県草津市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2775.html>

■ 2018年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018年6月12日(火)～13日(水)
 ○主催：土木学会水工学委員会河川部会
 ○場所：東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html>

■ 第8回マザーレイクフォーラムびわこミ会議 2018

○日時：2018年8月26日(日) 10:00～16:30
 ○主催：マザーレイクフォーラム運営委員会、滋賀県
 ○場所：コラボしが21(滋賀県大津市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2771.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2018.6.4-8(フランス/リオン) 3rd International Conference on Integrative Sciences and Sustainable Development of Rivers (I.S.Rivers)
- 2018.8.19-24(東京) 12th International Symposium on Ecohydraulics (ISE2018)
- 2018.10.14-18(シドニー) 21st International Riversymposium

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？ (2017.3 発行)

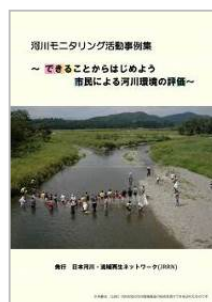
- ・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

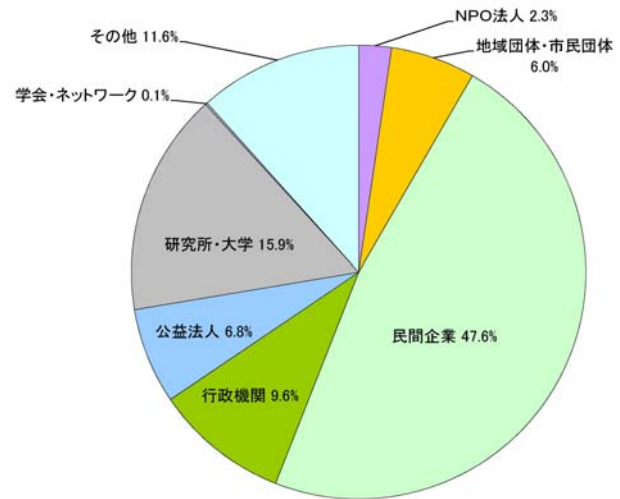
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年4月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：777名、団体会員数：59団体)

※4月の新規入会数：個人会員5、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRAN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

